

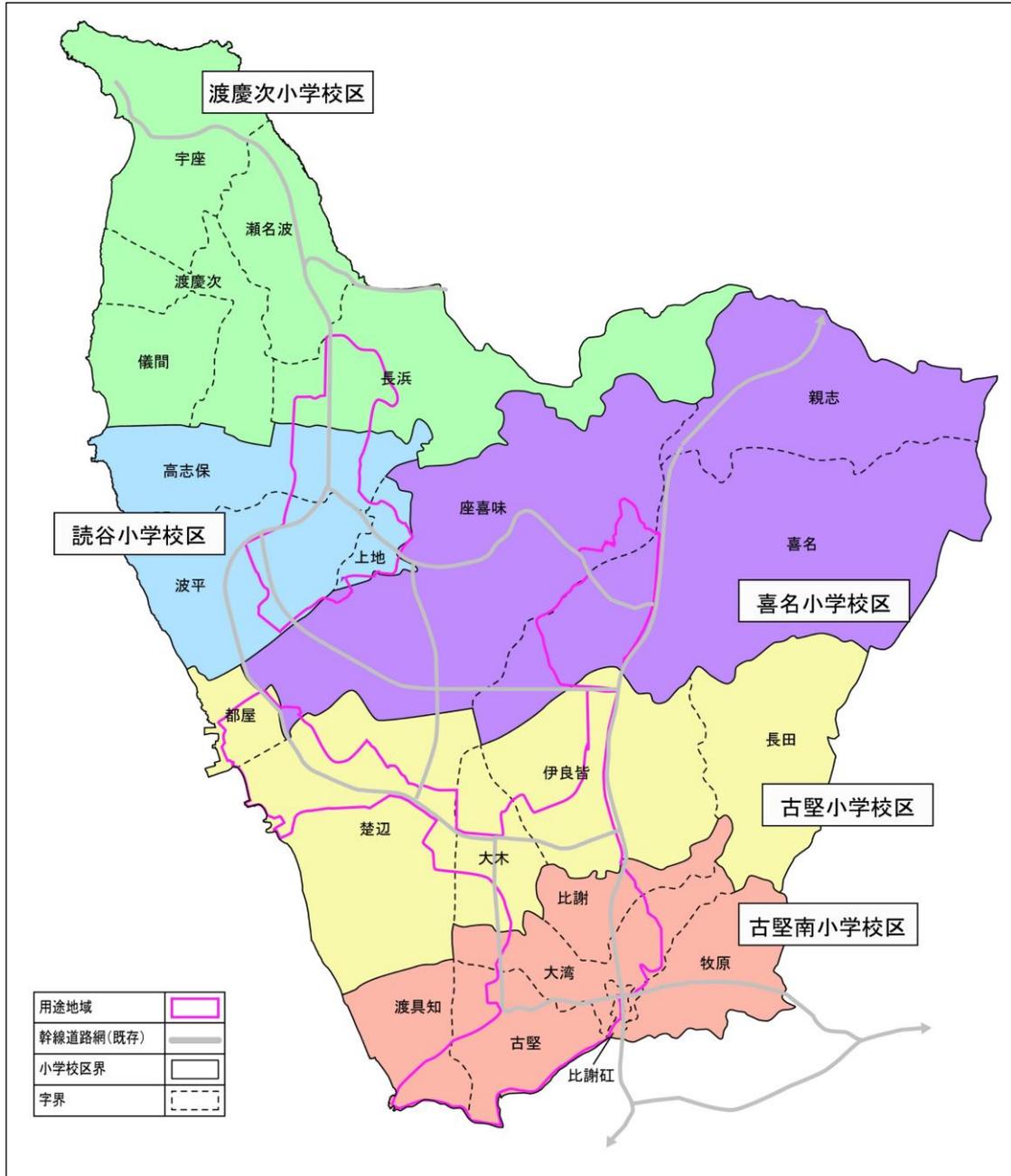
第4部

地域別構想

第1章 地域別構想の考え方

第2章 地域別構想

<地域区分図>



※都屋については、市街地のまとまり、連続性等を踏まえ、古堅小学校区として区分します

<各小学校区の現況>

	面積 (ha)	人口 (人)	高齢化率 (%)
渡慶次小学校区	752.1 ha (21.3%)	7,285 人 (18.4%)	18.4%
読谷小校区	364.0 ha (10.3%)	6,907 人 (17.5%)	19.3%
喜名小学校区	1,164.7 ha (33.0%)	6,849 人 (17.3%)	18.0%
古堅小学校区	801.1 ha (22.7%)	10,751 人 (27.2%)	18.8%
古堅南小学校区	446.0 ha (12.6%)	7,712 人 (19.5%)	17.5%
村全体	3,528.0 ha	39,504 人	18.0%

※ () 内は構成比 ※四捨五入の関係で合計値がそれぞれの内訳を積算したものと一致しない

2. 地域別構想の構成

地域別構想の構成は以下のとおりです。

<地域の現況と課題>

(1) 現況と特性

地域ごとの現況（人口、土地利用、道路・交通等）や村民の意向、全体構想で設定した基本構想や各分野の方針を踏まえた地域の特性を整理します。

(2) 地域づくりの課題

地域の現況と特性を踏まえた、地域におけるむらづくりの主要課題を整理します。

<地域づくり構想>

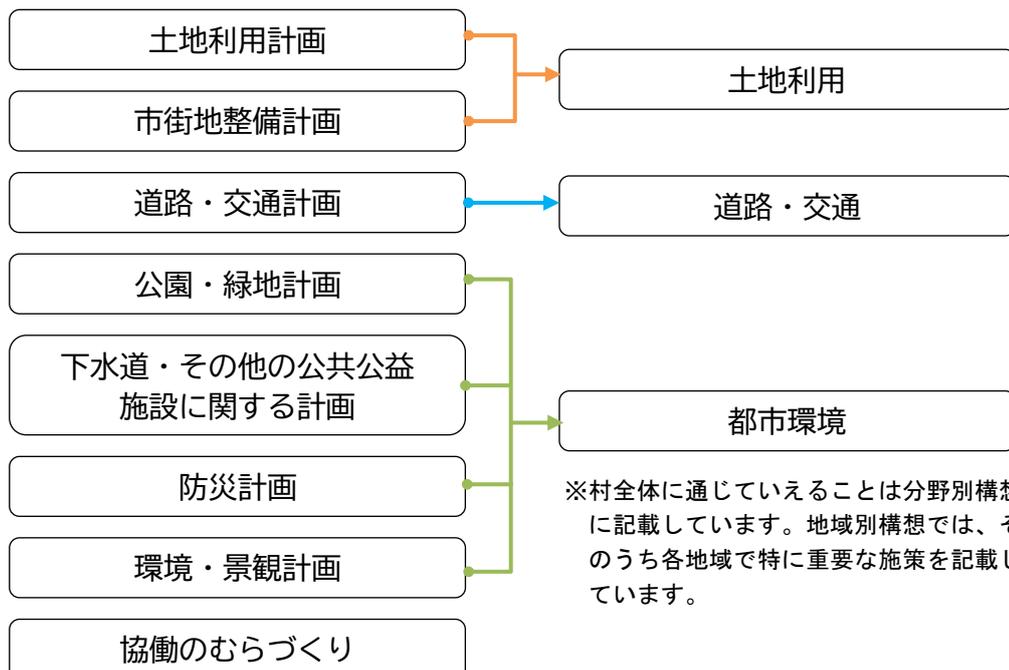
(3) 地域づくりの基本目標・方針

地域の現況と課題を踏まえ、地域の目指すべき方向性として、地域づくりの基本目標を設定します。

さらに、地域づくりの基本目標を実現するにあたって、分野ごとの方針を設定します。地域づくりの方針における分野は分野別構想の8つの分野を関連する3つの分野に区分し、設定します。

第3部 基本構想(分野別構想)

第4部 地域別構想



※村全体に通じていえることは分野別構想に記載しています。地域別構想では、そのうち各地域で特に重要な施策を記載しています。

第2章 地域別構想

1. 渡慶次小学校区

(1) 現況と特性

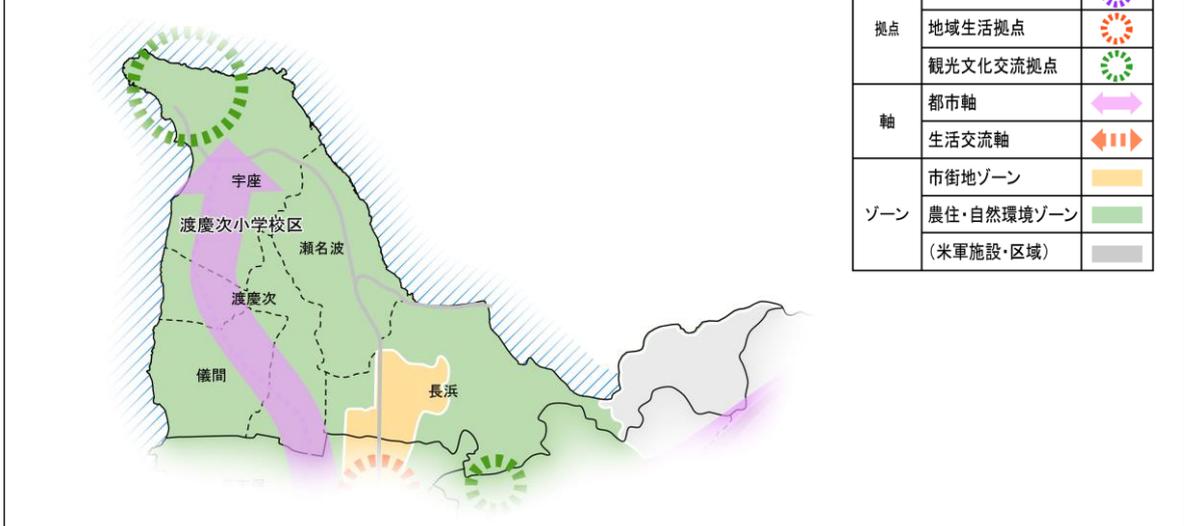
①地域の現況

人口	<p>Ⓐ 渡慶次小学校区の人口は増加傾向で、今後も増加することが想定されています。</p> <p>Ⓑ 高齢化率は上昇傾向にありますが、令和22(2040)年における高齢化率は5地区のなかで最も低いことが想定されています。</p>
土地利用	<p>現況</p> <p>Ⓐ 用途地域内をはじめ、用途地域外でも県道6号線沿道、土地改良事業や復帰先地整備事業で基盤整備された宇座、儀間周辺が住宅地として利用されています。</p> <p>Ⓑ 住宅地以外は、農業を主体とした土地利用がされている他、残波岬周辺では公園やゴルフ場など観光的土地利用がされています。</p>
	<p>人口集積</p> <p>Ⓐ 用途地域内をはじめ、用途地域縁辺部でも集積がみられ、今後も集積が続く見込みです。</p>
	<p>機能集積</p> <p>Ⓐ 人口の集積がみられる地域では、ある程度都市機能の集積がありますが、宇座、儀間周辺では都市機能の集積はみられません。</p> <p>Ⓑ 買い物利便性について、地域住民のニーズが高い状況です。</p>
	<p>開発動向</p> <p>Ⓐ 用途地域外における農地転用や新築着工が多く、市街地の拡大が進んでいる状況です。</p>
	<p>開発計画</p> <p>Ⓐ 瀬名波通信施設跡地において、土地改良事業による農業基盤整備が計画されています。なお、一部、非農用地として住宅基盤が形成される計画です。</p>
道路・交通	<p>現況</p> <p>Ⓐ 県道6号線が地域の主要道路で、村中部・南部と恩納村方面に連絡しています</p> <p>Ⓑ 幹線道路整備について、地域住民のニーズが高い状況です。</p>
	<p>計画</p> <p>Ⓐ 村道中央残波線の残波岬方面への延伸が計画されています。</p>
	<p>公共交通</p> <p>Ⓐ 県道6号線沿道の一部が公共交通利便地域となっていますが、人口が集積する地域でも、広く不便地域となっています。また、空白地域もみられます。</p>
その他都市環境	<p>Ⓐ 本県の景勝地である残波岬が位置している他、自然豊かな西海岸が広がる地域で、自然環境を活かしたリゾート地でもあります。</p> <p>Ⓑ 医療や福祉の環境について、地域住民のニーズが高い状況です。</p>

②地域の特性

- Ⓐ 残波岬を核に恵まれた自然環境を活かし、リゾート開発やスポーツコンベンション等を通し、地域の振興を図る地域
- Ⓐ 整備された農業基盤を活かし、農業の振興を図る地域
- Ⓐ 自然環境や営農環境と調和した住宅地を形成する地域

<全体構想における将来都市構造図（渡慶次小学校区抜粋）>



(2) 地域づくりの課題

<自然環境の保全と活用>

- Ⓐ 本県を代表する景勝地である残波岬や地域を彩るサンゴ礁の海、西海岸に広がるサトウキビ畑等の農村風景と眺望をはじめとする自然環境は、本村及び地域の重要な資源であるため、引き続き未来へ継承することが求められます。
- Ⓐ 残波岬及び西海岸周辺では、地域資源を最大限に活かした魅力的なリゾート開発及びボールパークの整備とスポーツキャンプの誘致等が進んでおり、地域活力を高めるため、これらの取り組みや整備を活かした、地域の魅力向上が求められます。

<良好な住環境の形成>

- Ⓐ 人口増加が進む中、用途地域外での開発圧力が高くなっており、良好な営農環境やのどかな住環境の保全に向け、開発の誘導が求められます。
- Ⓐ 生活サービス機能の集積が少ない地域もあり、集落等の生活利便性を確保するための取り組みが求められます。
- Ⓐ 防災上の危険をかかえ、また、景観形成上保全すべき斜面緑地について住宅立地が進んでおり、安全な住環境の整備、景観の保全のための対策が求められます。

<良好な営農環境の整備>

- Ⓐ 本村の豊かな環境・文化を支えてきた農村が広く分布しており、基幹産業である農業の維持、良好な農村景観を守るためにも都市と農村の調和が求められます。
- Ⓐ 瀬名波通信施設跡地については、土地改良事業が計画されており、その推進が必要です。

(3) 渡慶次小学校区の地域づくり構想

①地域づくりの基本目標

残波岬をはじめとする自然環境を活かした田園集落地区形成

■残波岬をはじめとした地域資源を活かし、スポーツコンベンション等多角的な取り組みによる地域の振興

- ⌘ 残波岬やサンゴ礁の海等の自然環境を引き続き保全するとともに、観光の振興や自然交流・自然体験の場として活用するなど、地域の振興を図ります。
- ⌘ 残波岬周辺のリゾート開発及びボールパークをはじめとするスポーツ交流施設や公園等の整備を契機として、スポーツコンベンション等多角的な取り組みを通じて地域の振興を図ります。

■西海岸等の豊かな自然環境や良好な営農環境と調和した住環境の維持・向上

- ⌘ 自然環境や営農環境と調和した、ゆとりあるのどかな住環境を維持していくために、適切な土地利用のコントロールや計画的な土地利用の推進を図ります。
- ⌘ 地域の生活利便性を高めるために、都市機能が集積する地域生活拠点との連携強化や集落でのサービス施設の維持・創出による住み続けられるむらづくりを図ります。



残波岬公園



良好な営農環境

②地域づくりの方針

■土地利用の方針

□残波岬をはじめとする良好な自然環境の活用

Ⓐ 本県の景勝地である残波岬、豊かな自然が残る西海岸や崖地の緑地について、その土地のもつ価値を活かした土地利用や観光開発を行うなど、地域の振興を図ります。



宇座ビーチ

□適切な土地利用コントロールと計画的な土地利用の推進

Ⓐ 既成市街地・既存集落の維持及び周辺の豊かな営農環境を保全するため、宅地開発については、用途地域内や基盤整備が実施された地区への誘導を図ります。

Ⓐ 用途地域外の既存集落においては、ゆとりある良好な住環境の形成を図るため、用途地域や地区計画等をはじめとした規制・誘導手法の調査・研究を図ります。

Ⓐ 開発が進む本地域において、地域の魅力向上や周辺環境の質の向上、地域の生活利便性向上に向けて、必要な整備については、地域及び関係者との調整を踏まえ、計画検討を進めます。

□営農環境の維持・向上

Ⓐ 農地が生み出す田園景観がのどかな環境を生み出していることから、景観計画等と連携を図りながら、適切な土地利用の規制・誘導を図ります。

Ⓐ 土地改良事業で整備された農地など、現在の農地については、営農環境の維持を図るため、その適切な保全、維持管理を図ります。

Ⓐ 瀬名波通信施設跡地については、土地改良事業により良好な農地及び営農者のための住宅地整備に向けた事業の推進を図ります。



本地区に広がる農地

■道路・交通の方針

□地域間連携の強化

Ⓐ 村民センター地区や周辺の地域生活拠点との連携強化、残波岬への観光アクセスの強化・交流の促進に向けて村道中央残波線の残波岬方面への延伸を図ります。

□安全安心な道路網形成

Ⓐ 狭あい道路については、緊急輸送路の確保、子どもや高齢者の安全・快適な歩行環境を確保するため、地域と連携しながらその改善に向けた検討を行います。

Ⓐ 農業用と観光用の道路利用の混在がみられる道路では、良好な営農環境の維持や安全性を確保するため、村道中央残波線をはじめとする道路の整備や案内の充実等を図ります。

■都市環境の方針

□残波岬をはじめとする良好な自然環境の保全と活用

Ⓐ 本県の景勝地である残波岬、豊かな自然が残る西海岸や崖地の緑地について、公園の適切な維持管理や景観計画等の適切な運用により、引き続きその保全を図ります。

Ⓐ ボールパークや周辺のリゾート施設を核として、スポーツキャンプの誘致等スポーツコンベンションによる地域の振興を図ります。

Ⓐ 海岸部の開発を行う場合には、養浜、防風・防潮林の保全とともに、村民の海浜利用を確保するなど、豊かな自然環境との調和を図ります。

Ⓐ 自然環境を活かした魅力ある地域づくりと生活環境の向上にむけ、基盤整備事業と連携した公園や広場等の整備を図ります。



西海岸のリゾート

□残波岬を核とした景観の形成

Ⓐ 残波岬や西海岸については、景観計画等の適切な運用により、地形に馴染むスカイラインの形成や残波岬周辺における構造物の設置の抑制を図ります。

□防災まちづくり

Ⓐ 長浜斜面緑地、瀬名波崖地等については、景観上重要な斜面であることや防災の観点から、開発の適切な規制を図ります。



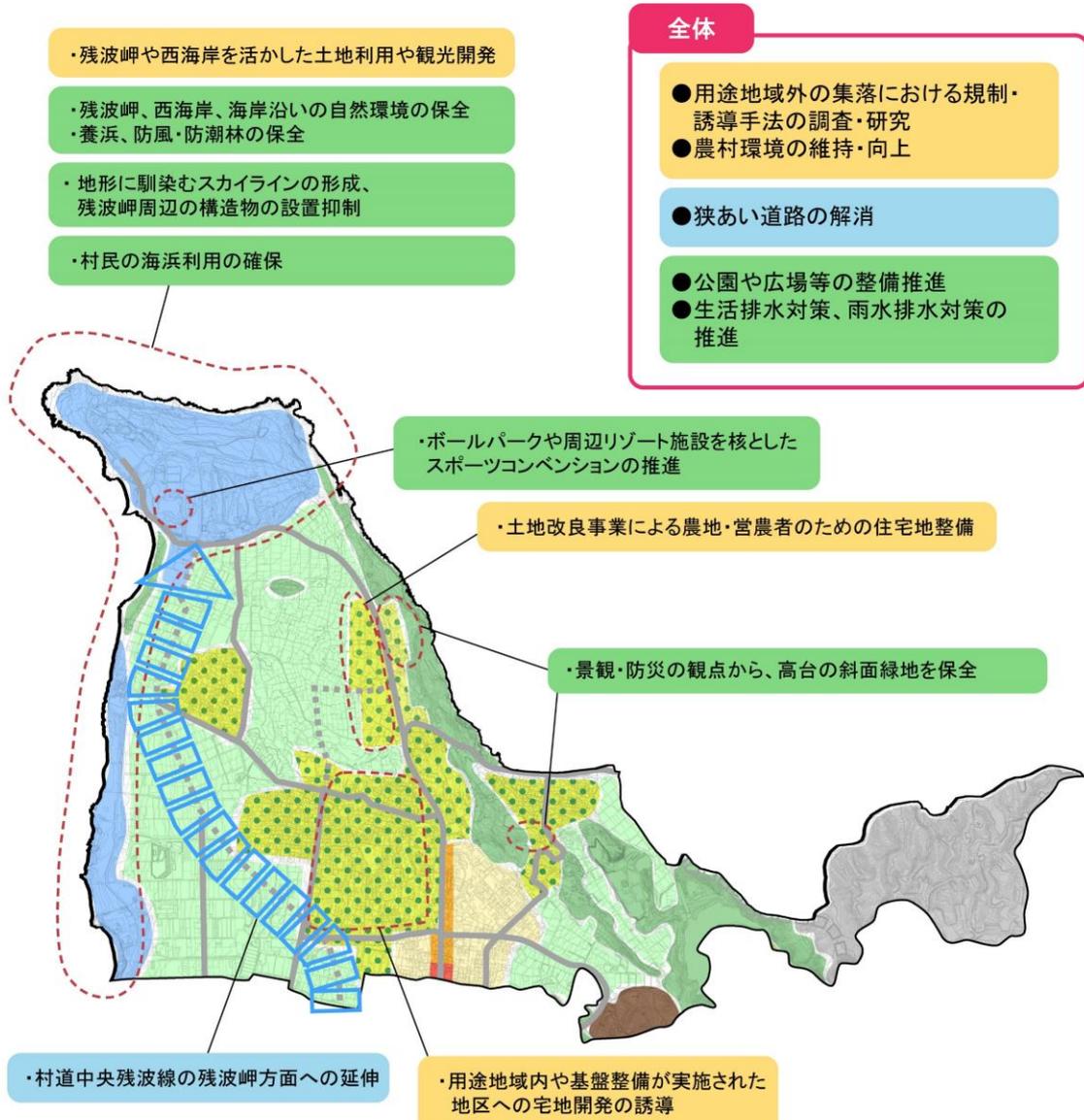
斜面の開発が進む長浜地区

□良好な生活環境の形成

Ⓐ 公共下水道や合併浄化槽の整備推進など、良好な生活環境の形成に向けて、適切な生活排水対策を図ります。

Ⓐ 生活環境の改善、安全なむらづくりを推進するため、雨水排水対策を図ります。

＜渡慶次小学校区の地域づくり方針図＞



凡例

市街地ゾーン	商業・サービス地区	■
	沿道サービス地区	■
	中低層住宅地区	■
	計画的都市基盤整備地区	■
村民センターゾーン	村民センター地区	■
集落・田圃住宅ゾーン	集落・田圃住宅地区	■
	観光・文化ゾーン	観光・レクリエーション地区
農業生産ゾーン	文化交流地区	■
	農業生産地区	■
環境保全ゾーン	産業振興地区	■
	環境保全地区(海岸・森林・河川)	■
	環境回復整備地区	■
軍用地跡地調整地区		■
米軍施設・区域		■

凡例

土地利用に関する項目	■
道路・交通に関する項目	■
都市環境に関する項目	■

2. 読谷小学校区

(1) 現況と特性

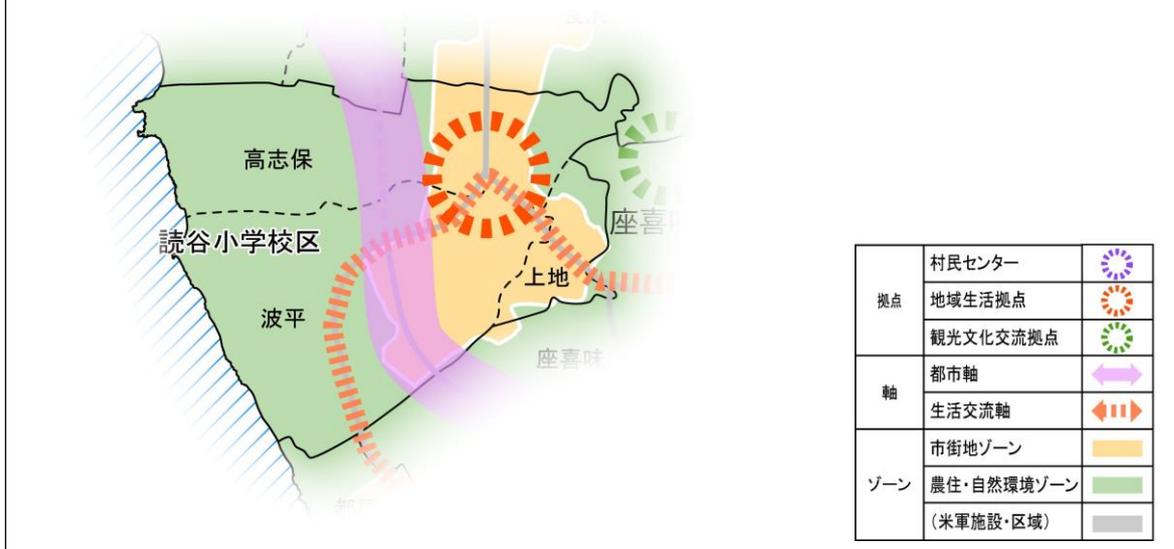
①地域の現況

人口	<p>Ⓐ 読谷小学校区の人口は増加傾向で、今後も増加することが想定されています。ただし、令和 17（2035）年をピークに減少することが想定されています。</p> <p>Ⓑ 高齢化率は上昇傾向にありますが、令和 22（2040）年における高齢化率は村全体よりは低いことが想定されています。</p>
土地利用	<p>現況</p> <p>Ⓐ 高志保（県道 6 号線沿い）に多くの都市機能が集積しています。</p> <p>Ⓑ 用途地域内（楚辺通信所跡地を除く）をはじめ、用途地域外でも用途地域縁辺部や県道 6 号線沿道が住宅地として利用されています。</p> <p>Ⓒ 住宅地以外では、農業を主体とした土地利用がされています。</p>
	<p>人口集積</p> <p>Ⓐ 用途地域内（楚辺通信所跡地を除く）をはじめ、用途地域外でも用途地域縁辺部や県道 6 号線沿いに人口の集積がみられます。</p>
	<p>機能集積</p> <p>Ⓐ 県道 6 号線及び県道 12 号線沿道では一定の都市機能が集積しており、高志保付近では、多くの都市機能が集積しています。</p>
	<p>開発動向</p> <p>Ⓐ 用途地域外における農地転用や新築着工が多く、市街地の拡大が進んでいる状況です。</p>
	<p>開発計画</p> <p>Ⓐ 波平平石原他西南地区地区計画により、ゆとりのある田園住宅地区の形成に向けて、道路や公園等の整備が計画されています。</p>
道路・交通	<p>現況</p> <p>Ⓐ 県道 6 号線及び県道 12 号線が地域の主要道路で、国道 58 号方面に連絡しています。</p>
	<p>計画</p> <p>Ⓐ 村道中央残波線の残波岬方面の延伸が計画されています。</p> <p>Ⓑ 波平平石原他西南地区地区計画により道路整備が予定されています。</p>
	<p>公共交通</p> <p>Ⓐ 県道 6 号線沿道など、人口が集積している地域では、公共交通の利便性も高い状況です。</p> <p>Ⓑ ただし、人口が集積している地域でも不便地域や空白地域がみられます。</p>
その他都市環境	<p>Ⓐ 生活排水対策について、地域住民のニーズが高い状況です。</p>

②地域の特性

- ⌘ 西海岸のリゾート地区における地域資源を活かした観光の振興や体験滞在型観光の振興を図る地域
- ⌘ 整備された農業基盤を活かし、農業の振興を図る地域
- ⌘ 村北部の生活の拠点となる地域として様々な都市機能の立地誘導や機能の維持を図る地域
- ⌘ 都市と農村環境の調和する新たな住宅地の形成を図る地域

<全体構想における将来都市構造図（読谷小学校区抜粋）>



(2) 地域づくりの課題

<多様な都市機能の集積と定住促進>

- ⌘ 県道6号線沿道を中心に各種都市機能が集積しており、村北部における生活を支えるため、引き続き都市機能の維持・向上が求められます。
- ⌘ 人口増加が進む中、用途地域外での開発圧力が高くなっており、営農環境の保全や良好な住環境の形成に向け、開発の誘導が求められます。
- ⌘ 楚辺通信所跡地においては、地区計画が指定されており、道路や公園の整備など良好な住環境整備が求められます。

<自然環境等の保全と活用>

- ⌘ 地域を彩る西海岸等の自然環境は、本村及び地域の重要な資源であるため、引き続き未来へ継承することが求められます。
- ⌘ 西海岸周辺には、サンゴ礁の海、サトウキビ畑等の農村風景と眺望をはじめとする自然環境に加え、体験滞在型施設等が立地しており、これらの環境を活かした地域の魅力を高める取り組みが求められます。
- ⌘ 本村の豊かな環境・文化を支えてきた農村が広く分布しており、基幹産業である農業の維持、良好な農村景観を守るためにも都市と農村の調和が求められます。

(3) 読谷小学校区の地域づくり構想

①地域づくりの基本目標

西海岸等の自然環境や営農環境と調和した村北部の拠点形成

■村北部の生活拠点の形成と定住環境の整備

- Ⓐ 現在の都市機能の集積を活かし、村北部の生活利便性を確保していくため、読谷中学校跡地の活用をはじめ、都市機能の維持・集積による村北部の拠点形成を図ります。
- Ⓑ 戦後、最初の帰村許可地区となり、古くからの市街地を形成している場であるため、拠点形成における都市機能誘導や周辺の都市基盤整備と一体となった市街地の再編など、安全・安心な定住環境の形成を図ります。

■西海岸等の豊かな自然環境等の保全とそれを活かした地域振興

- Ⓐ 西海岸及びその周辺に広がる豊かな自然環境と良好な農業基盤等の保全に向けて、適切な土地利用コントロールを図ります。また、これらの自然環境と農業基盤等の地域資源を活かし、体験滞在型施設とも連携を図りながら、新たな価値創造を促す地域の振興を図ります。



村北部の拠点として多様な都市機能の集まる
高志保地区



むら咲むら

②地域づくりの方針

■土地利用の方針

□村北部の生活の拠点の形成

Ⓐ 県道6号線沿道の高志保地区については、村北部における地域住民の生活を支える拠点として、都市機能の誘導及び現在の都市機能の維持・向上を図ります。

Ⓐ 県道6号線沿道の波平地区は、周辺住民の生活利便性を維持するため、日常生活に必要な機能の維持・集積を図ります。



生活機能が集積する波平地区

□良好な住環境の形成

Ⓐ 既成市街地の維持及び周辺の豊かな営農環境を保全するため、宅地開発については、用途地域内や基盤整備が実施された地区への誘導を図ります。

Ⓐ 用途地域内には、狭あい道路が多く防災上課題を有することから、住宅開発の誘導・整備にあたっては、道路事業や地区計画等による都市施設の整備について検討を進めます。

Ⓐ 用途地域外の既存集落や基盤整備が実施され宅地開発が進行している地域は、良好な住環境の形成を図るため、用途地域の指定や地区計画等をはじめとした規制・誘導手法の調査・研究を図ります。

Ⓐ 楚辺通信所跡地については、地区計画における道路や公園等の地区施設の整備や地区整備計画の適切な運用を図り、都市と農村環境の調和する田園住宅地の形成を推進します。

□営農環境の維持・向上

Ⓐ 農地が生み出す田園景観がのどかな環境を生み出していることから、景観計画等と連携を図りながら、適切な土地利用の規制・誘導を図ります。

Ⓐ 土地改良事業で整備された農地など、現在の農地については、営農環境の維持を図るため、その適切な保全、維持管理を図ります。



本地区に広がる農地

■道路・交通の方針

□地域間連携の強化

- Ⓐ 地域生活拠点との連携強化や残波岬への観光アクセスの強化・交流の促進に向けて村道中央残波線の残波岬方面への延伸を図ります。
- Ⓐ 楚辺通信所跡地については、地区計画により地区施設に指定されている道路の整備を図り、周辺地域との連携強化や田園住宅地の形成に資する生活道路の整備を図ります。

□安全安心な道路網形成

- Ⓐ 狭あい道路については、緊急輸送路の確保、子どもや高齢者の安全・快適な歩行環境を確保するため、地域と連携しながらその改善に向けた検討を行います。
- Ⓐ 農業用と観光用の道路利用の混在がみられる道路では、良好な営農環境の維持や安全性を確保するため、村道中央残波線をはじめとする道路の整備や案内の充実等を図ります。

■都市環境の方針

□西海岸をはじめとする良好な自然環境・営農環境の維持

- Ⓐ 豊かな自然が残る西海岸等について、景観計画等の適切な運用により、その保全を図ります。
- Ⓐ 豊かな自然環境の保全、地形に馴染むスカイラインの形成などにより、独自の景観づくりや自然と調和する景観形成を図ります。
- Ⓐ 海岸部の開発を行う場合には、養浜、防風・防潮林の保全とともに、村民の海浜利用を確保するなど、豊かな自然環境との調和を図ります。
- Ⓐ 農業基盤や体験滞在型施設と連携した観光の推進を図ります。

□魅力ある沿道景観の形成

- Ⓐ 県道6号線沿道等については、残波岬へのアクセスルートとなる村北部のシンボル道路として、道路の修景や沿道の緑化など、読谷中学校跡地整備を契機に魅力ある沿道景観の形成を図ります。

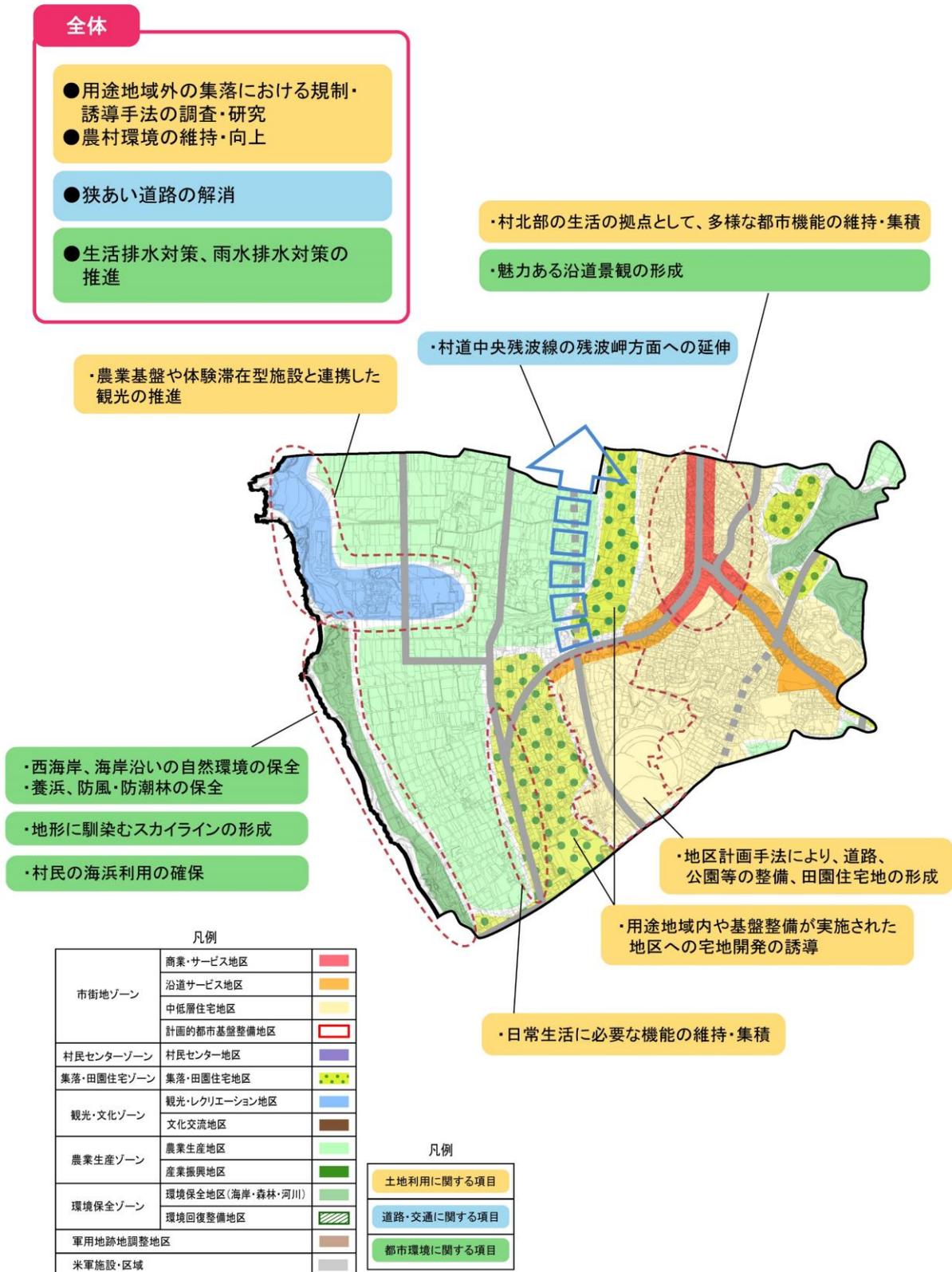


整備が進む読谷中学校跡地

□良好な生活環境の形成

- Ⓐ 公共下水道や合併浄化槽の整備推進など、良好な生活環境の形成に向けて、適切な生活排水対策を図ります。
- Ⓐ また、生活環境の改善、安全なむらづくりを推進するため、雨水排水対策を図ります。

〈読谷小学校区の地域づくり方針図〉



3. 喜名小学校区

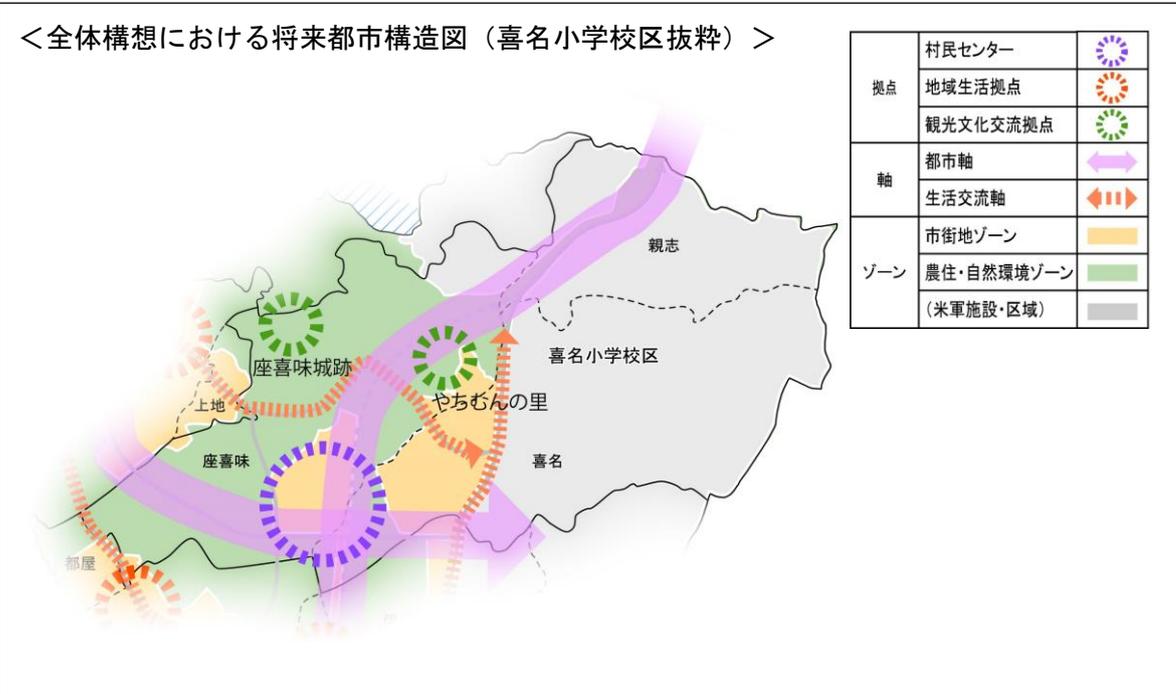
(1) 現況と特性

①地域の現況

人口	<p>Ⓐ 喜名小学校区の人口は増加傾向で、今後も増加することが想定されています。</p> <p>Ⓑ 高齢化率は上昇傾向にありますが、令和22(2040)年における高齢化率は村全体よりは低いことが想定されています。</p>
土地利用	<p>現況</p> <p>Ⓐ 用途地域内をはじめ、用途地域外でも座喜味周辺で住宅地として利用されています。</p> <p>Ⓑ 読谷補助飛行場跡地では、農業を主体とした土地利用もされています。</p> <p>Ⓒ 座喜味城跡^{ざきみじょうあと}やヤチムンの里など歴史文化的な土地利用がされている他、村民センター地区も位置しています。</p> <p>Ⓓ 国道58号東側には駐留軍用地(嘉手納弾薬庫地区)が位置しています。</p>
	<p>人口集積</p> <p>Ⓐ 用途地域内をはじめ、用途地域外でも座喜味周辺で人口の集積がみられます。</p>
	<p>機能集積</p> <p>Ⓐ 人口の集積している地域では、一定の都市機能の集積がみられます。</p>
	<p>開発計画</p> <p>Ⓐ 村民センター地区において、(仮称)読谷村総合情報センター等、新たな公共公益施設の整備が計画されています。</p> <p>Ⓑ 読谷補助飛行場(北地区)跡地では、地区計画により道路等の整備が計画されています。</p>
道路・交通	<p>現況</p> <p>Ⓐ 国道58号が地区を南北に連絡している他、県道12号線が地区を東西に連絡しています。</p>
	<p>計画</p> <p>Ⓐ 沖縄西海岸道路(読谷道路)の整備が計画されています。</p>
	<p>公共交通</p> <p>Ⓐ 国道58号沿道の一部が公共交通利便地域となっていますが、人口が集積する地域でも、広く不便地域となっています。また、空白地域もみられます。</p>
その他都市環境	<p>Ⓐ 座喜味城跡^{ざきみじょうあと}やヤチムンの里など、歴史や文化を現在に伝える地域です。</p> <p>Ⓑ 採石場跡地一体でセーラの森公園が整備され、高低差を活かした展望広場等が整備されています。</p> <p>Ⓒ 身近に利用できる公園や生活排水対策について、地域住民のニーズが高い状況です。</p> <p>Ⓓ 医療や福祉の環境について、地域住民のニーズが高い状況です。</p>

②地域の特性

- Ⓐ 座喜味城跡やヤチムンの里などを活かした本村の歴史・文化の拠点形成を図る地域
- Ⓐ 本村、村民活動の中心地として、農漁・商工・観光の複合した本村の産業の発信地となる拠点形成を図る地域
- Ⓐ 地域資源を活かした歴史や文化が薫る住宅地の形成を図る地域



(2) 地域づくりの課題

＜歴史や文化の継承とそれを活かした魅力向上＞

- Ⓐ 世界遺産である座喜味城跡やヤチムンの里等は、本村の歴史や文化を現在に伝える重要な資源として、未来へ継承していくことが求められます。
- Ⓐ 加えて、歴史・文化を活かしたむらづくりを進めてきた本村の魅力をさらに高めるため、引き続き周辺の市街地と一体的な街並みの形成や、歴史・文化資源を活かした観光産業との連携が求められます。
- Ⓐ 生活排水への対策が求められるなど、歴史と文化に調和しながらも、良好な住環境の形成が求められます。

＜村民センター地区の形成＞

- Ⓐ 読谷村役場を中心に多様な都市機能が集積している村民センター地区について、今後も本村の拠点として都市機能の維持・集積が求められます。

＜既存施設を核とした産業の振興＞

- Ⓐ 本村の農業を支える選果場やファーマーズマーケット等が整備されており、これらの施設を活かした農業をはじめとする産業の振興が求められます。

(3) 喜名小学校区の地域づくり構想

①地域づくりの基本目標

本村の歴史・ひと・もの・文化を結び、
発信する黄金環の形成

■世界遺産 座喜味城跡やヤチムンの里を核とした歴史・文化の拠点形成

Ⓐ 座喜味城跡やヤチムンの里を核として、周辺地域一体の都市空間や景観を保全し、本村の歴史や文化を現在、そして将来に伝える歴史・文化の拠点を形成します。

Ⓐ 座喜味城跡やヤチムンの里等と調和した歴史と文化が薫る住環境の形成を図ります。

■本村、村民活動の中心地となる村民センター地区の形成

Ⓐ 村民センター地区については、現在の機能の維持や（仮称）読谷村総合情報センター等の新たな機能の整備を図り、人々が集い、健康で賑わいのある拠点の形成を図ります。

Ⓐ 緑あふれる森の中の村民センター地区を形成し、本村の緑の拠点形成を図ります。

Ⓐ 平和の森球場をはじめとするスポーツ交流施設等を活かし、スポーツを通じた本村の魅力向上を図ります。

■本村の基幹産業である農業を支える地区形成

Ⓐ 生産・販売・物流機能等の向上を図り、6次産業化の推進など、本村の基幹産業である農業を支える産業振興地区の形成を図ります。



座喜味城跡



村民センター地区

②地域づくりの方針

■土地利用の方針

□本村の歴史・文化を現在に伝える拠点形成

Ⓐ 座喜味城跡^{ざきみじょうあと}やヤチムンの里等の本村の歴史と文化を現在に伝える地域として、これらの歴史文化資源を核に、それらと調和した土地利用を図ります。

Ⓐ 座喜味集落をはじめとする周辺の住宅地は、景観計画や景観地区の適切な運用を行い、地区の持つ歴史や文化と調和した住環境の形成を図ります。

Ⓐ 地区の持つ歴史や文化を活かし、世界遺産座喜味城跡^{ざきみじょうあと}ユンタンザミュージアムを核とした地域の振興を図ります。



ヤチムンの里

□歴史と文化が調和した良好な住環境の形成

Ⓐ 喜名地域の既成市街地や座喜味集落については、持続可能な地域の形成に向けて、地域住民と協力し、住機能の更新等とあわせた街路整備や広場空間の整備、緑化等を推進し、住環境の向上を図ります。

Ⓐ 座喜味東原地区については、地区計画手法等の活用により、良好な住環境の整備を図ります。

座喜味城跡周辺の集落^{ざきみじょうあと}

□本村、村民活動の中心地となる村民センター地区の形成

Ⓐ 読谷村役場、平和の森球場をはじめ多様な機能が集積する村民センター地区については、本村、そして村民活動の中心地として、現在の機能の維持や（仮称）読谷村総合情報センター等の新たな機能の整備を図ります。

Ⓐ 村民センター地区を核として、地域振興センター周辺の産業振興地区との一体的整備や赤犬子・展望広場及びロードパーク等の都市軸上の一体性を高めることで、本村の新たな賑わいや活力を創出します。

Ⓐ 多様な機能の集積や中心地として魅力ある空間を演出していくため、用途地域等の指定や景観計画に基づく景観形成重点地区の検討など、土地利用の適切な規制・誘導の検討を進めます。

□農業をはじめとする産業の振興

Ⓐ 村道中央残波線の伊良皆ー村民センター地区間の沿道は、産業振興地区として、農業をベースとした産業の振興、農産品の流通・販売機能等の土地利用の維持・向上を図ります。

Ⓐ 村民センター地区と連携しながら、地域振興センターやファーマーズマーケット等を中心に、賑わい拠点の形成を図ります。



ファーマーズマーケット

■道路・交通の方針

□沖縄西海岸道路（読谷道路）の整備推進

Ⓐ 広域的な都市間連携及び村民センター地区へのアクセス性を高めるため、沖縄西海岸道路（読谷道路）の整備を促進します。

□安全安心な道路網形成

Ⓐ 狭あい道路については、緊急輸送路の確保、子どもや高齢者の安全・快適な歩行環境を確保するため、地域と連携しながらその改善に向けた検討を行います。

Ⓐ 地域生活拠点との連携強化に向けて、村道親志波平線をはじめとする道路整備を図ります。

■都市環境の方針

□世界遺産 座喜味城跡^{ざきみじょうあと}を中心とした景観形成

Ⓐ 世界遺産である座喜味城跡^{ざきみじょうあと}やヤチムンの里、喜名番所など地域の歴史や文化を現在に伝える施設についてはその適切な保全・維持管理を図ります。

Ⓐ 景観計画や景観地区の適切な運用を行い、世界遺産である座喜味城跡^{ざきみじょうあと}を中心に、地区の持つ歴史や文化と調和した景観の形成を図ります。

□森の中の村民センター地区の形成

Ⓐ 村民センター地区においては、地区全体で公園のような整備を推進するため、新たな施設整備を図る際は、読谷村役場をはじめとする既存施設や周辺の緑と調和する施設整備を図ります。特に、施設外構部は既存施設との連続性に留意しながら、緑あふれる整備を図ります。

Ⓐ 本村の温暖な気候や豊かな自然環境を活かしたプロスポーツチームのキャンプ誘致や大会の開催、パークゴルフ場の利活用など、スポーツコンベンションの推進によるスポーツを通じた本村・地域の新たな価値創造を図ります。



村民センター地区

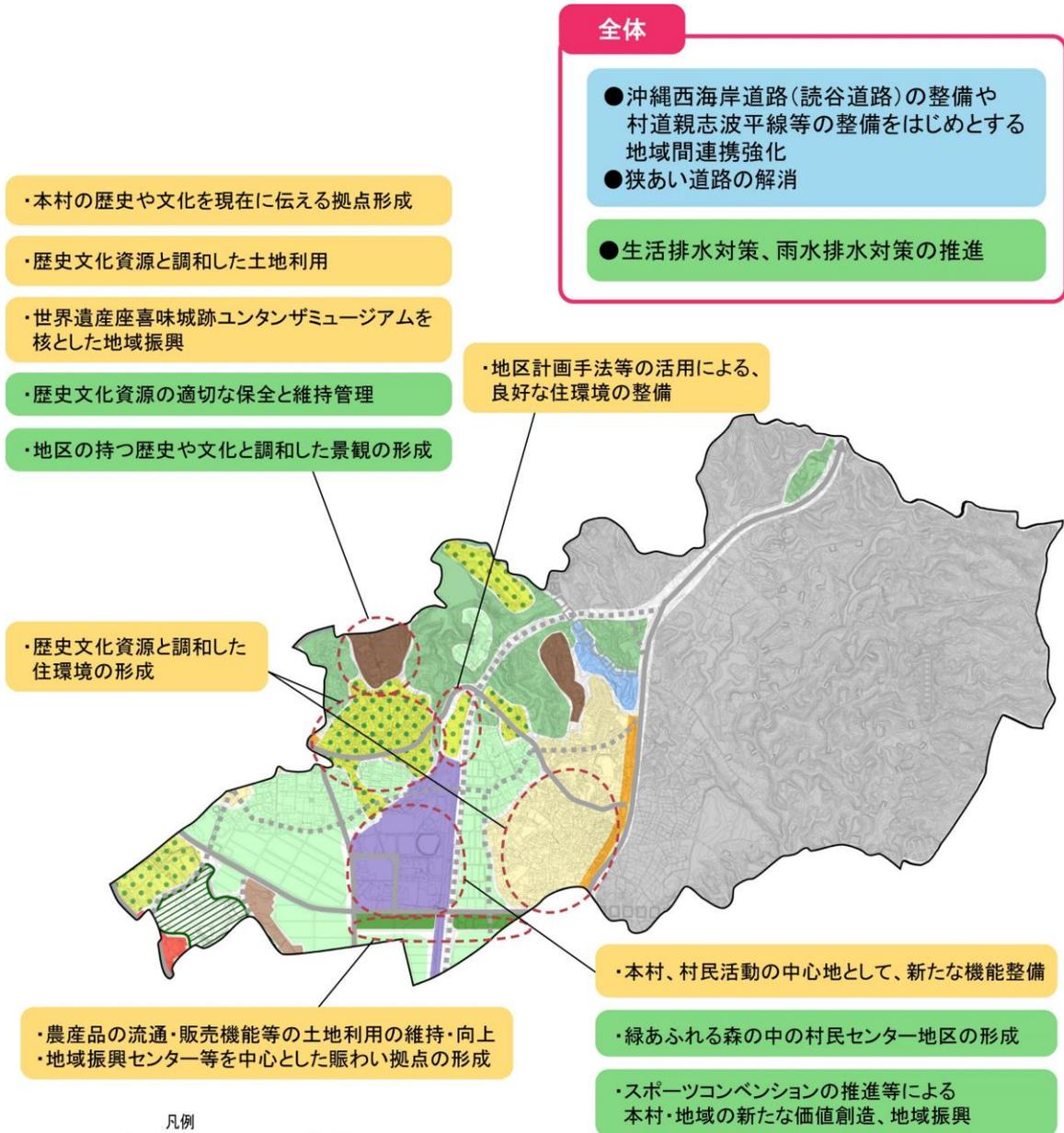
Ⓐ ロードパークは、沖縄戦や読谷補助飛行場の歴史を踏まえ、また、村民センター地区と赤犬子・展望広場や大木地区との一体性を高めるため、景観に配慮しながら遊歩道や広場空間の整備を図ります。

□良好な生活環境の形成

Ⓐ 公共下水道や合併浄化槽の整備推進など、良好な生活環境の形成に向けて、適切な生活排水対策を図ります。

Ⓐ また、生活環境の改善、安全なむらづくりを推進するため、雨水排水対策を図ります。

<喜名小学校区の地域づくり方針図>



凡例

市街地ゾーン	商業・サービス地区	
	沿道サービス地区	
	中低層住宅地区	
	計画的都市基盤整備地区	
村民センターゾーン	村民センター地区	
集落・田園住宅ゾーン	集落・田園住宅地区	
観光・文化ゾーン	観光・レクリエーション地区	
	文化交流地区	
農業生産ゾーン	農業生産地区	
	産業振興地区	
環境保全ゾーン	環境保全地区(海岸・森林・河川)	
	環境回復整備地区	
軍用地跡地調整地区		
米軍施設・区域		

凡例

	土地利用に関する項目
	道路・交通に関する項目
	都市環境に関する項目

4. 古堅小学校区

(1) 現況と特性

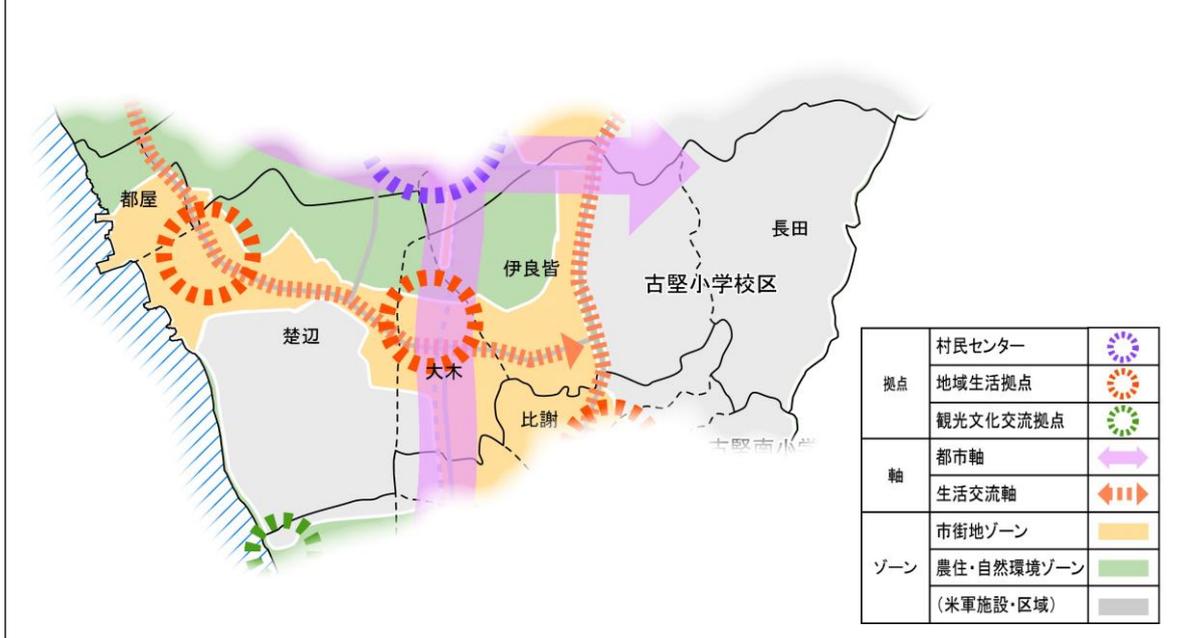
①地域の現況

人口	<p>Ⓐ 古堅小学校区の人口は増加傾向にありましたが、平成 27 (2015) 年より減少に転じており、このまま進んだ場合、今後も減少することが想定されています。</p> <p>一方で、土地区画整理事業の進捗による新たな居住者の増加も想定されます。</p> <p>Ⓑ 高齢化率は上昇傾向にあり、令和 22 (2040) 年における高齢化率は村全体よりも高いことが想定されています。</p>	
土地利用	現況	<p>Ⓐ 用途地域内は住宅地や沿道商業地として利用されています。</p> <p>Ⓑ 読谷補助飛行場跡地では、農業を主体とした土地利用がされています。</p> <p>Ⓐ 国道 58 号東側及び地区南西部には駐留軍用地(嘉手納弾薬庫地区及びトリイ通信所)が位置しています。</p> <p>Ⓑ 都屋漁港が位置しています。</p>
	人口集積	<p>Ⓐ 用途地域内に人口が集積している他は、人口の集積は見られません。</p>
	機能集積	<p>Ⓐ 人口が集積している地域を中心に、広く都市機能が集積しています。</p> <p>特に、楚辺地区や都屋地区、伊良皆地区は多くの都市機能が集積しています。</p>
	開発計画	<p>Ⓐ 大木地区において、土地区画整理事業が実施され、商業地や住宅地の整備が計画されています。</p> <p>Ⓑ 大木南地区において、土地区画整理事業による都市基盤整備が計画されています。</p>
道路・交通	現況	<p>Ⓐ 国道 58 号が地区を南北に連絡している他、県道 6 号線が地区を東西に連絡しています。</p> <p>Ⓑ 交通渋滞の改善について、地域住民のニーズが高い状況です。</p>
	計画	<p>Ⓐ 沖縄西海岸道路(読谷道路)の整備が計画されています。</p>
	公共交通	<p>Ⓐ 人口の集積している地域では、概ね公共交通利便地域となっていますが、県道 6 号線より離れた地域や国道 58 号沿道の一部は公共交通空白地域となっています。</p>
その他都市環境	<p>Ⓐ ロードパークや赤犬子・展望広場の整備が計画されています。</p>	

②地域の特性

- Ⓐ 南部地域の生活の拠点となる地域として様々な都市機能の立地誘導や機能の維持を図る地域
- Ⓑ 本村の新しい玄関口として、都市機能の立地誘導や住宅地など新たな市街地の形成を図る地域
- Ⓒ 住環境の向上やコミュニティの形成など市街地の質的向上を目指す地域

<全体構想における将来都市構造図（古堅小学校区抜粋）>



(2) 地域づくりの課題

<立地条件を活かした新たな市街地整備>

- Ⓐ 土地区画整理事業による整備が行われている大木地区は、沖縄西海岸道路（読谷道路・嘉手納バイパス）の延伸に伴い、本村の新たな玄関口としての整備が求められます。
- Ⓑ 大木南地区においても土地区画整理事業による整備が計画されており、良好な住環境の整備が求められます。
- Ⓒ ロードパークや赤犬子・展望広場の整備が予定されており、土地の持つ歴史や文化の発信や玄関口（起点）として周辺との連携を誘導する整備が求められます。

<既成市街地の抱える問題の解消>

- Ⓐ 用途地域内においては、相当に人口が集積していますが（5地域で最多）、今後大きく減少することが予想されており、居住人口をはじめ都市活力を維持していくことが求められます。
- Ⓑ 昔ながらの市街地であり、伊良皆や大木などは都市基盤が不十分なまま住宅建設が続き、狭あい道路等を多く抱える市街地が形成されており、対策が求められます。

(3) 古堅小学校区の地域づくり構想

①地域づくりの基本目標

本村の新たな玄関口と地域の生活を支える拠点形成

■本村の新たな玄関口と地域の生活拠点の形成

- ⌘ 大木地区については、立地条件を活かした本村の新たな玄関口として、また、地域の生活利便性を確保するため、都市機能の立地誘導や住宅地形成など、新たな拠点形成を図ります。
- ⌘ ロードパークや赤犬子・展望広場は、玄関口として住む人・訪れる人の憩い・交流の場として整備を図るとともに、村民センター地区を結ぶシンボル性の高い空間の創出を目指します。

■生活を支える都市基盤の形成と定住の促進

- ⌘ 周辺地域へのアクセス性が高く、昔ながらの市街地と新たな市街地が融合する本村の中心的な居住の場として、良好な都市基盤の形成と定住の促進を図ります。
- ⌘ 大木南地区をはじめ、今後の住宅需要を誘導する新たな住宅地の整備及びこれら市街地整備を契機とした周辺市街地の再編に向けた取り組みを進めます。
- ⌘ 楚辺・都屋周辺については、現在の都市機能の維持や向上による、地域の生活を支える拠点形成を図ります。



本村の新たな玄関口となる大木地区



多様な都市機能が集まる伊良皆地区

②地域づくりの方針

■土地利用の方針

□大木地区における本村の新たな玄関口の形成

Ⓐ 大木地区については、引き続き土地区画整理事業による計画的な都市基盤の整備を推進します。

Ⓐ 沖縄西海岸道路（読谷道路）やロードパークにより連続する村民センター地区と連携を図り、本村の新たな玄関口としてふさわしい都市機能の誘導・集積を図ります。



今後、整備が進む沖縄西海岸道路（読谷道路）【写真中央】や大木南地区【写真左】

□大木南地区における良好な住環境の形成

Ⓐ 大木南地区についても、土地区画整理事業による計画的な都市基盤の整備を推進します。

□既成市街地の再編

Ⓐ 狭あい道路等が多く、防災上・安全上の課題を抱えている既成市街地については、道路整備や面的整備等が行われる場合はそれと連携した市街地の再編に向けた調査・研究を図ります。

Ⓐ 地域住民と協力し、住機能の更新等とあわせた街路整備や広場空間の整備、緑化等を推進し、住環境の向上を図ります。



狭あい道路の多い楚辺地区

□地域の生活拠点の形成

Ⓐ 県道6号線沿道の楚辺・都屋地区は、地域住民の生活利便性や多様な都市機能の維持・向上を図ります。

■道路・交通の方針

□道路環境の改善

Ⓐ 沖縄西海岸道路（読谷道路）や村道大木喜名線等の整備推進により村民センター地区等との地域間連携の強化、交通渋滞の解消を図ります。

Ⓐ これらの道路は、本村の新たな玄関口として、本村への訪れを感じられる道路植栽の整備や沿道の住民との協働による適切な維持管理を図り、良好な道路景観の形成・維持を図ります。

□安全安心な道路網形成

Ⓐ 狭あい道路については、緊急輸送路の確保、子どもや高齢者の安全・快適な歩行環境を確保するため、地域と連携しながらその改善に向けた検討を行います。

■都市環境の方針

□土地の持つ価値や歴史を現在に伝える拠点の形成

Ⓐ 赤犬子・展望広場は、赤犬子の伝承を踏まえた施設整備、東シナ海への眺望を活かした展望広場等の施設整備を図ります。

Ⓐ ロードパークは、沖縄戦や読谷補助飛行場の歴史を踏まえ、また、村民センター地区と赤犬子・展望広場や大木地区との一体性を高めるため、景観に配慮しながら遊歩道や広場空間の整備を図ります。



赤犬子・展望広場整備イメージ
※出典：赤犬子・展望広場及びロードパーク
基本設計委託業務説明書

□都市の景観形成

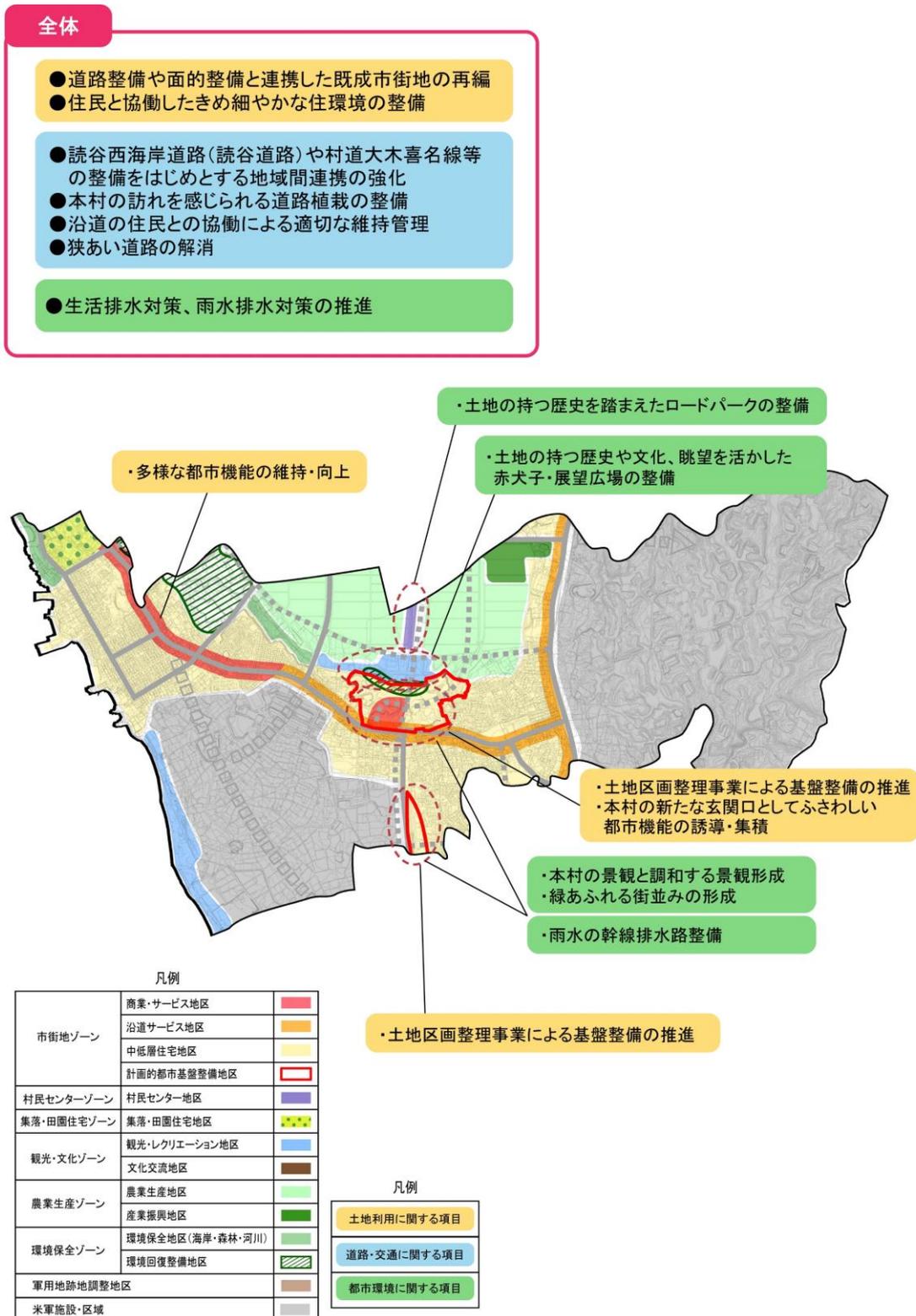
Ⓐ 大木地区や大木南地区では、景観計画の適切な運用や地区計画の導入を検討し、これまでに形成されてきた本村の景観と調和する景観形成や緑あふれる街並みの形成を図ります。

□良好な生活環境の形成

Ⓐ 公共下水道や合併浄化槽の整備推進など、良好な生活環境の形成に向けて、適切な生活排水対策を図ります。

Ⓐ 近年の宅地化に加え、今後、大木地区・大木南地区についても都市基盤の整備が進行することで、雨水排水対策が必要となっていることから、大木地区・大木南地区から村南部方向に雨水の幹線排水路の整備を推進するなど、環境の保全に配慮しながら雨水排水対策を図ります。

<古堅小学校区の地域づくり方針図>



5. 古堅南小学校区

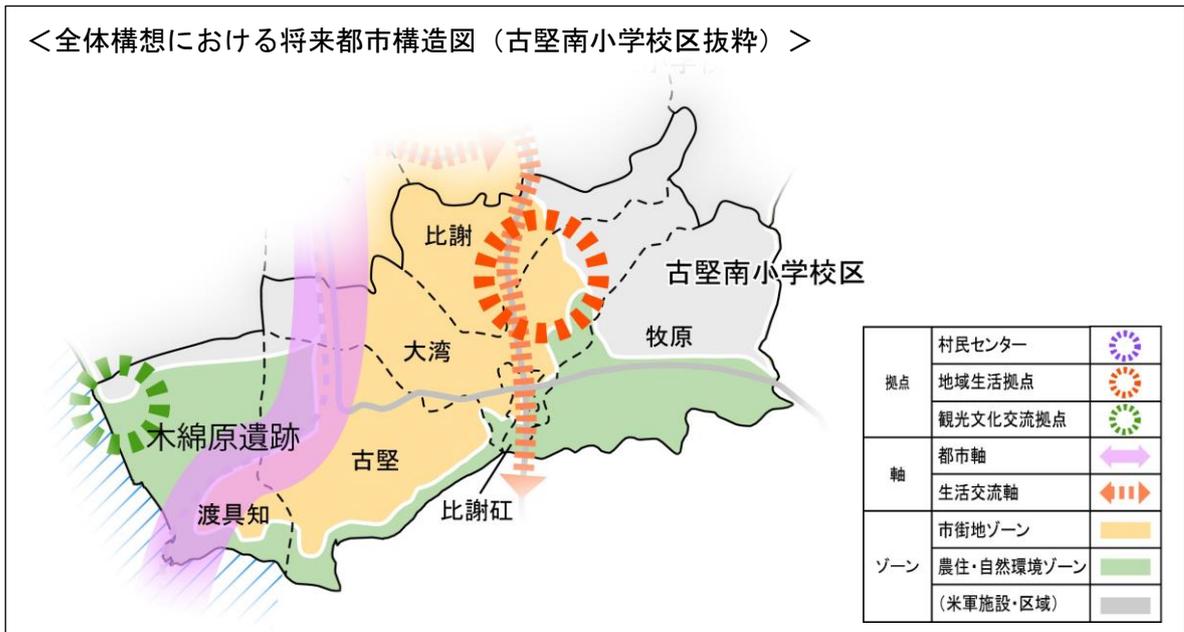
(1) 現況と特性

①地域の現況

人口	<p>Ⓐ 古堅南小学校区の人口は増加傾向にありましたが、平成 27 (2015) 年より減少に転じており、このまま進んだ場合、今後も減少することが想定されています。</p> <p>一方で、土地区画整理事業の進捗による新たな居住者の増加も想定されます。</p> <p>Ⓑ 高齢化率は上昇傾向にあり、令和 22 (2040) 年における高齢化率は村全体よりも高いことが想定されています。</p>
土地利用	<p>現況</p> <p>Ⓐ 用途地域内は住宅地や沿道商業地として利用されています。</p> <p>Ⓑ 用途地域外は概ね農業を主体とした土地利用がされている他、営農者向けの住宅として利用されています。</p> <p>Ⓐ 地区東側は駐留軍用地（嘉手納弾薬庫地区）が位置する他、ゴルフ場として利用されています。</p> <p>Ⓑ 悪臭や騒音のない住環境の快適性について、地域住民のニーズが高い状況です。</p>
	<p>人口集積</p> <p>Ⓐ 用途地域内に人口が集積している他、渡具知周辺で人口の集積が見られます。</p>
	<p>機能集積</p> <p>Ⓐ 人口が集積している箇所を中心に一定の都市機能が集積しています。</p>
	<p>開発計画</p> <p>Ⓐ 大湾東地区において、土地区画整理事業が実施され、商業地や住宅地等の都市基盤が整備されています。</p>
道路・交通	<p>現況</p> <p>Ⓐ 沖縄西海岸道路（読谷道路）が地区を南北に連絡している他、県道 16 号線が地区を東西に連絡しています。</p> <p>Ⓑ 歩道の安全性・快適性について、地域住民のニーズが高い状況です。</p> <p>Ⓑ 交通渋滞の改善について、地域住民のニーズが高い状況です。</p>
	<p>計画</p> <p>Ⓐ 沖縄西海岸道路（読谷道路・嘉手納バイパス）の整備が計画されています。</p>
	<p>公共交通</p> <p>Ⓐ 国道 58 号沿道の一部が公共交通利便地域となっていますが、人口が集積する地域でも、広く不便地域となっています。</p>
その他都市環境	<p>Ⓐ 避難場所や避難路の充実度について、地域住民のニーズが高い状況です。</p> <p>Ⓑ 地域の防災体制について、地域住民のニーズが高い状況です。</p> <p>Ⓑ 交通安全施設の充実度について、地域住民のニーズが高い状況です。</p>

②地域の特性

- Ⓐ 都市機能の立地誘導や長田川沿いの緑と調和した緑あふれる住宅地の形成など新たな市街地の形成を図る地域
- Ⓐ 周辺環境と調和する秩序ある土地利用の誘導など市街地の質的向上を図る地域
- Ⓐ 持続可能な農業を基本に資源循環型農業、交流・体験農業等の都市農業を推進する地域
- Ⓐ 比謝川や長田川沿いの水辺空間の環境を保全しながら、その価値の向上、地域の活性化を図る地域



(2) 地域づくりの課題

＜立地条件を活かした新たな市街地整備＞

Ⓐ 土地区画整理事業による整備が行われている大湾東地区は、国道58号沿道と長田川沿いの立地条件を活かした新たな市街地整備が求められます。

＜既成市街地の抱える問題の解消＞

Ⓐ 今後、人口が大きく減少することが予想されており、地域の特性を活かしながら居住人口をはじめ都市活力を維持していくことが求められます。

Ⓐ 一部の地域において、都市基盤が不十分なまま住宅立地や用途地域の指定がされており、良好な住環境の形成に向け、適切な規制・誘導が求められます。

＜自然環境等の保全と活用＞

Ⓐ 地域を彩るサンゴ礁の海や比謝川・長田川沿いの水辺空間、施設園芸農業等の農村風景をはじめとする自然環境は地域の重要な資源であるため、引き続き未来へ継承することが求められます。

Ⓐ これらの自然環境や農村環境を活かした定住の誘導、地域の魅力を高める取り組みが求められます。

(3) 古堅南小学校区の地域づくり構想

①地域づくりの基本目標

本村の玄関口と中心的な定住の場の形成

■広く都市圏に開かれた本村の定住拠点の形成

- ⌘ 大湾東地区については、本村の玄関口として都市機能の立地誘導による新たな拠点形成と周辺都市圏へのアクセス性を活かした本村の中心的な定住環境の創出を図ります。
- ⌘ 既成市街地では、人口減少が進んでいることから、西海岸や比謝川等の豊かな自然環境と連携しながら質の高い住宅地整備により、定住促進を目指します。

■西海岸や比謝川等の豊かな自然環境と良好な農業基盤を活かした地域の振興

- ⌘ サンゴ礁の海や比謝川・長田川等の自然環境、農村環境を引き続き保全するとともに、交流・体験農業等の推進による地域の振興を図ります。



本村の玄関口である大湾東地区



比謝川沿いの豊かな緑

②地域づくりの方針

■土地利用の方針

□大湾東地区における本村の玄関口の形成

- Ⓐ 大湾東地区について、引き続き土地区画整理事業による計画的な都市基盤の整備を推進します。
- Ⓐ 本村の玄関口として、また、村南部における地域住民の生活を支える拠点として、多様な都市機能の誘導を図ります。
- Ⓐ 立地を活かした本村の中心的な定住の場として、都市基盤整備の推進と良好な市街地環境の形成に向けた取り組みを推進します。

□既成市街地の再編

- Ⓐ 狭あい道路等が多く、防災上・安全上の課題を抱えている既成市街地については、道路整備や面的整備等とあわせ、市街地の再編に向けた調査・研究を図ります。
- Ⓐ 地域住民と協力し、住機能の更新等とあわせた街路整備や広場空間の整備、緑化等を推進し、住環境の向上を図ります。



土地区画整理事業で整備された古堅地区

□土地利用のコントロールと計画的な土地利用の推進

- Ⓐ 古堅～渡具知の第一種低層住居専用地域に指定された地域など、良好な住環境の形成のために、地区計画等をはじめとした規制・誘導、都市基盤の整備等に向けた調査・研究を図ります。

□営農環境の維持・向上

- Ⓐ 農地が生み出す田園景観がのどかな環境を生み出していることから、景観計画等と連携を図りながら、適切な土地利用の規制・誘導を図ります。
- Ⓐ 土地改良事業で整備された農地など、現在の農地については、営農環境の維持を図るため、その適切な保全、維持管理を図ります。

■道路・交通の方針

□道路環境の改善

Ⓐ 沖縄西海岸道路（読谷道路・嘉手納バイパス）や（仮称）村道比謝横断線等の整備、土地区画整理事業等の推進により、地域間連携や地区の東西・南北方向の連携強化、交通渋滞の解消を図ります。

Ⓐ 今後整備する道路や主要な生活道路における歩道の整備や拡幅、街路灯やカーブミラー等の交通安全施設の設置により、歩行者が安全で快適に歩ける道路環境の整備・改善を図ります。

Ⓐ 本村への訪れを感じられる道路植栽の整備や沿道の住民との協働による適切な維持管理を図り、良好な道路景観の形成・維持を図ります。

□安全安心な道路網形成

Ⓐ 狭あい道路については、緊急輸送路の確保、子どもや高齢者の安全・快適な歩行環境を確保するため、地域と連携しながらその改善に向けた検討を行います。



整備が進む大湾東地区内の生活道路

■都市環境の方針

□良好な自然環境・営農環境の維持

Ⓐ 西海岸や比謝川・長田川の水辺空間について、泊城公園の適切な維持管理や景観計画等の適切な運用によりその環境の保全を図ります。

Ⓐ 自然資源を活かした周辺環境整備などにより、比謝川・長田川河畔の地域づくりを図ります。

Ⓐ 地域の振興に向けて、持続可能な農業に向けた資源循環型農業や交流・体験農業等の都市農業の推進を図ります。

Ⓐ アガリヌウガン遺跡等、地域に残る文化財については、その歴史を継承するとともに、地域の振興を図るため、その保全と活用を図ります。



比謝川沿いの自然環境

□都市の景観形成

Ⓐ 大湾東地区では、地区計画や景観計画の適切な運用を図り、これまでに形成されてきた本村の景観と調和する景観形成や緑あふれる街並みの形成を図ります。

□良好な生活環境の形成

Ⓐ 公共下水道や合併浄化槽の整備推進など、良好な生活環境の形成に向けて、適切な生活排水対策を図ります。

Ⓐ また、生活環境の改善、安全なむらづくりを推進するため、雨水排水対策を図ります。

<古堅南小学校区の地域づくり方針図>

